

有明海産トラフグ幼魚の標識放流結果について

松清 恵一・矢野 実*

Tagging Experiment of the Young Puffer *Takifugu rubripes*
(TEMMINCK & SCHLEGEL) in Ariake Bay

Keiichi MATSUKIYO and Minoru YANO

黄海・東シナ海および九州西海域における我が国のフグ類漁獲量は、低目に見積っても7500トン以上と推定されている。¹⁾

近年、これらフグ類資源の減少傾向が著しく、その不振を打開するため人工種苗の放流による資源培養の気運が昂まり関係機関による共同事業が実現されつつある。

これに先立って、1981年9~11月有明海において長崎県水産試験場島原分場と西海区水産研究所の共同によるトラフグ幼魚の標識放流を実施した。その結果、二、三の特徴的な情報を得たので、ここに短報として報告する。

材料と方法

標識放流を行った供試魚は、表1に示す如く有明海産トラフグ当才魚で、総数659尾を3回に分けて、アンカータグを用いて個体別に番号を付して放流した。放流地点は図1に示すとおり、国見町沖と有明

町大三東沖である。

結果

再捕結果は図1、表2に示すとおりである。総数28尾の再捕報告を得たが、放流後2ヶ月以内に、放流点に近い有明海で20尾(71%)の再捕報告があつた。その後、80日経過後橘湾において小型底曳網によって2尾再捕された。

放流後365日を経過して、中国渤海天津沖($39^{\circ}15'N$, $119^{\circ}30'E$)で再捕された。これは標識番号「西水研キ160」と確認され、第7回日中漁業共同委員会の際、中国側代表団から報告を受けたもので、再捕時には全長305mm、体重1030gであったとその記録が併せて報告された。

さらに、460日を経過した1983年1月9日山口県萩市越ヶ浜の延縄漁業者による再捕報告を受けた。標識番号は、「西水研キ227」で再捕位置は、対馬西方海域の北緯 $34^{\circ}05'$ 、東経 $128^{\circ}02'$ の位置である。

表1. トラフグ幼魚標識放流実施概要

Table 1. Important factors on tagging experiment of young puffer

Date	Locality	Number of released individuals	Mean of total body length (cm)	Mean of body weight (gr)
1982 SEP. 24	KUNIMI	126	18(16~20)	160(60~220)
1982 OCT. 6~8	KUNIMI	409	18(15~22)	160(85~270)
1982 NOV. 4	ARIAKE	124	22(17~25)	230(110~320)

表2. 標識トラフグの経過日数と再捕尾数

Table 2. The number and days of recaptured fishes after its releaseing

Days of release	Number of recaptured individuals
0 ~ 30	13
31 ~ 60	6
61 ~ 90	5
91 ~ 120	1
121 ~ 150	1
365	1
460	1

* 西海区水産研究所（長崎市国分町49）

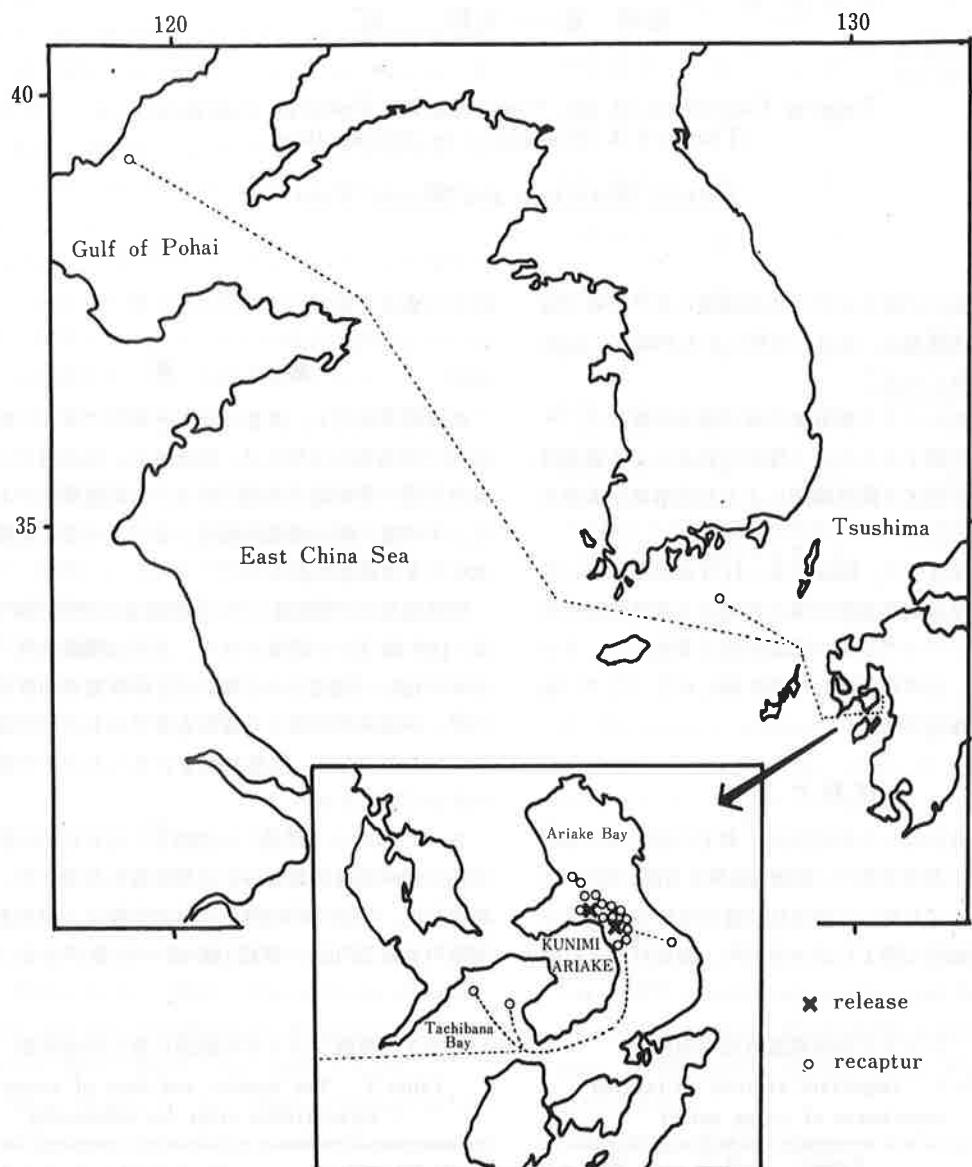


図1. 標識トラフグの放流地点と再捕地点

Fig. 1. The place where tagged fishes were released and recaptured.

考 察

トラフグ親魚については、瀬戸内海尾道市沖で標識放流調査が行なわれ、豊後水道を通過して大分県蒲江沖で再捕されたり、関門海峡を経て佐賀県馬渡島沖での再捕報告がある²⁾。

この結果から、トラフグ親魚については広域回遊

することが推察されていたが、今回のトラフグ幼魚（当才魚）の標識放流結果からも、有明海から対馬海峡そして渤海へかけて広域の回遊生態をもつことが示唆された。しかし報告事例が少ないため、幼魚、未成魚、成魚と各発育段階別に標識放流実験を行い、トラフグの分布回遊に関する情報を蒐集し補完することが今後の課題である。

Abstract

659 young puffers (*Takifugu rubripes*) were tagged and released at Ariake Bay during the period of September to November, 1981. Two of them were recaptured at Tachibana Bay 80 days after release. Later, each one tagged fish was recovered at off Dalian (China) in the Gulf of Pohai (at 39° 15' N, 119° 30' E) on October 6, 1982 (after 365 days) and at the western sea area of Tsushima on January 9, 1983 (after 460 days), respectively. On the basis of these recapture records it is assumed that *Takifugu rubripes* distributes and migrates in the wide sea area including the western coastal area of Kyushu, the East China Sea and the Yellow Sea.

文 獻

- 1) 花渕信夫 1982：黄海、東シナ海におけるフグ類について、昭和56年度漁業資源研究会議西日本

底魚部会会議報告、37~45.

- 2) 国行一正・矢野実・高森茂樹 1978：架橋予定期およびその周辺水域におけるトラフグ資源調査、本州四国連絡架橋漁業影響調査報告、16.